

公益財団法人 川口教育・スポーツ財団

2022 年度（第 12 事業年度）

事業報告

2022 年 4 月 1 日から

2023 年 3 月 31 日まで

【 事業活動 】

I 公益目的事業

1. 青少年育成支援事業（公 1）

奨学金事業、図書寄贈事業、野球場施設貸与事業のいずれも、概ね事業計画のとおり遂行した。

収支については、次のとおり。（単位：万円）

	本年度	前年度比
経常収益	78	0
経常費用	545	30
経常増減額	△467	△30

(1) 奨学金事業

奨学生総数は原則 15 名、うち本年度募集は 10 名としたところ、16 名が応募した。奨学生選考委員会は、応募者の学業成績、学習活動、家計の経済状況等を厳正かつ公正に審査し、11 名を適格とし、理事長はこれを承認した。この結果、奨学生総数 16 名（前年度比+5 名）に月額 1 万円を支給し、総額 192 万円（前年度比+60 万円）であった。

本年度合格者は次のとおり。

高等学校		男	女	計
県立	千葉女子		3	3
	四街道	1		1
	四街道北		2	2
	佐倉南	1	1	2
市立	船橋	1		1
	習志野	1	1	2
計		4	7	11

(2) 図書寄贈事業

事業計画のとおり、千葉市立（花見川区）及び八千代市立の小中学校 31 校に対し、各校が希望した図書 848 冊を寄贈した。

図書寄贈費は 138 万円（前年度比△4 万円）であった。

	千葉市立（花見川区）		八千代市立		計	
	寄贈校	冊数	寄贈校	冊数	寄贈校	冊数
小学校	11	339	10	223	21	562
中学校	5	160	5	126	10	286
計	16	499	15	349	31	848

(3) 野球場施設貸与事業

柏井グラウンドは、ホームグラウンドとしている「千葉北リトルシニア野球協会」が使用しているほか、一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会関東連盟東関東支部（千葉県及び茨城県 47 チーム）が主催する公式試合等にも使用されている。本年度は公式試合（29 試合）、東関東支部以外のチームを含む練習試合（36 試合）等、108 日間使用された。事業収益は 77 万円（前年度比±0 万円）であった。

II 収益事業

テニス事業については、会員増を目指して入会金半額キャンペーン等を行っているが、退会者も増えて、年度末会員 91 名（前年度比△6 名）、事業収益は前年度比減となった。

駐車場事業については、例年に比べて短期利用者が増えたことにより、事業収益は前年度比増となったが、4 年連続の赤字となった。

収益事業全体の収支については次のとおり。管理費按分後の利益は 210 万円で、全額を公益目的事業会計に振り替えた。

収益事業全体の収支については、次のとおり。（単位:万円）

	本年度	前年度比
経常収益	537	△ 6
経常費用	283	4
経常増減額	254	△ 10

1. テニス事業（収 1）

事業計画では、グリーンウッドテニスクラブ会員の高齢化等により数名の退会者が生じること及びコロナ禍で新規入会者の確保は厳しいことを想定していた。このため、次年度の会員増にも繋がることを期待して、ホームページを開設してクラブの特徴や活動状況等、入会希望者への情報を記載するとともに「無料体験プレイ」、「入会金半

額キャンペーン（23年度末まで）」を行い、紹介者にも恩典を付与している。しかし、本年度は未だその効果があったとは言えず、入会 2 名、退会 8 名、年度末会員 91 名（前年度比△6 名）となった。

なお、17 年度にコート全面補修工事を行ったが、近年は不良箇所が目立つので、23 年 6 月着工予定で原状回復工事を発注した（予算 200 万円）。

収支については次のとおりで、経常収益は会員減少により前年度比減、諸費用が増加し経常増減額も減少した。

（単位：万円）

	本年度	前年度比
経常収益	450	△30
経常費用	180	11
経常増減額	270	△41

（参考）会員数推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022
年度末会員数	109	105	101	97	91

2. 駐車場事業（収 2）

駐車場の利用台数は月々増減するため、事業収益及び経常増減額は年間の延契約月数によって左右される。契約 7 台、解約 7 台、年度末台数 8 台（前年度と同数）であったが、3.5 台の年間契約に相当する短期利用があったため、延契約月数は 114 ヶ月（前年度比+29 ヶ月）となった。これは年間を通して 9.5 台の契約に相当する事業収益となった。なお、4 年連続赤字であるが、その額は徐々に減少している。

収支については次のとおり（単位：万円）。

	本年度	前年度比
経常収益	87	24
経常費用	103	△ 7
経常増減額	△ 16	31

（参考）経常増減額の推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022
経常増減額	8	△17	△57	△47	△16
年度末台数	10	12	6	8	8
延契約月数	147	115	66	85	114

【新たな収益事業案の検討状況】

事業計画では、安定した収益を確保するため、駐車場用地を活用する新たな事業案を、前年度に続いて検討するとした。本年度に検討した事業案は次のとおりであるが、課題が多く、23年度も継続する。事業概要については、2022年度第2回理事会（23年3月9日開催）において、理事長より説明があった。

【事業案の概要】

当財団は、大和田駐車場内に子どもたちが通園するに適した施設を建築し、これを児童発達支援事業者（※）に貸与し、月額賃料30万円を30年間に亘って受領するもの。本事業は「不動産貸付業」に該当する。

（※）児童発達支援事業とは、児童福祉法により行政の認可を受けた「児童発達支援事業者」が、主として発達障害を持つ6歳までの未就学児童（定員10名以内）が集団生活や社会生活を送るための療育（訓練）を行う事業。児童発達支援事業者には国から給付金が支給される。

【本年度の検討事項】

主に次の事項を調査・検討したが、結論を出せる状況にはない。今後も、行政庁の認可を得るために必要な検討課題が多いが、前向きに対処する。

- ・八千代市から情報収集（児童発達支援事業等の実情及び事業者に期待する視点、児童発達支援事業に係る保護者の要望事項等）
- ・児童発達支援事業所の実地見学、児童の入所状況
- ・施設設計図案及び建設諸費用の見積もり（業者提案の検証）
- ・収支及び財務基準に関する試算ほか

【 法人管理 】

1. 収支については次のとおりで、収益は基本財産及び特定資産の運用益である。

運用益は前年度比△6万円となったが、要因は、高い運用益を得ていた有価証券2銘柄を前年度に売却または発行会社へ譲渡したことによる。費用は、AED（自動対外式除細動器）を購入（消耗什器備品費20万円）した等により、前年度比+25万円となった。

（単位：万円）

	本年度	前年度比
経常収益	384	△6
経常費用	122	25
経常増減額	262	△31
基本財産売却益	0	△3
当期増減額	262	△34

2. 理事会・評議員会等の開催

・2022 年度第 1 回理事会（2022 年 5 月 26 日）

開催場所 財団事務所（オンライン出席を含む）

決議事項 2021 年度事業報告及び附属明細書の承認、2021 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認、定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等。

報告事項 代表理事の職務の執行の状況

出席数等 理事現在数 8 名、定足数 5 名、出席理事 8 名、監事出席 1 名。

・2022 年度定時評議員会（2022 年 6 月 16 日）

開催場所 財団事務所（オンライン出席を含む）

決議事項 2021 年度事業報告及び附属明細書の承認、2021 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認。

報告事項 前回定時評議員会（2021 年 6 月 17 日）以降の理事会の決議内容。

出席数等 評議員現在数 4 名、定足数 3 名、出席評議員 4 名、監事出席 1 名。

・奨学生選考委員会（2022 年 7 月 8 日）

開催場所 財団事務所

議案 2022 年度から新たに支給する奨学生候補者選考の件

出席数等 委員現在数 3 名、出席委員 3 名、理事出席 2 名。

・2022 年度第 2 回理事会（2023 年 3 月 9 日）

開催場所 財団事務所（オンライン出席を含む）

決議事項 2023 年度事業計画書及び収支予算書等の承認の件、2023 年度常勤役員の役員報酬の件、諸規程の一部変更の件。

報告事項 代表理事の職務の執行の状況、資金の運用状況

出席数等 理事現在数 8 名、定足数 5 名、出席理事 8 名。監事出席 1 名。

以上のとおりであるが、2022 年度事業報告は本文にて事業等が詳細に説明された。したがって、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。

以上